

# 事務局たより

第39号 2019年12月1日 [chyda-kr@f8.dion.ne.jp](mailto:chyda-kr@f8.dion.ne.jp)

◇事務局 101-0061 千代田区神田三崎町 2-19-8 杉山ビル 2F  
千代田区労協気付 T:03-3264-2905 F:03-6272-5263

# 青春と人生を引き裂いた“戦争”

## 「戦争と一橋生—満州・シベリアで亡くなられた10人の軌跡」展

東京・国立市にある一橋大学の「第50回一橋祭」(11月22~24日)で、「戦争と一橋生—満州・シベリアで亡くなられた10人の軌跡」展を見学しました。同大学OBの「一橋いしぶみ会」が一橋新聞部の学生たちと大学に残る「戦没学生名簿」に残っている40人の記録を調べ、今回はそのうちの10人の人生と死にいたるまでをパネルにして展示していました。「一橋いしぶみ会」代表世話人の竹内雄介さんは、「若い人たちに戦争を知って欲しい」と語っていました。

4年前の2015年の「一橋祭」では「戦後70年からみる満州移民—長野県飯田下伊那の声」と題した講演を傍聴しました。敗戦から74年。再び「戦争への道」へと暴走する政権が眼前にある今、あの戦争の実態を掘り起こし伝える活動は意義あると思います。以下、会場でいただいたパンフ(写真右)から10人の軌跡を抜粋して紹介します。  
(福島 清)

### 44歳から21歳までの10人

ロシア語専攻を生かして「満州国」外交官として活躍したが、スパイ罪で死刑となった

○佐藤三郎さん 1909年生、1928年予科入学、ロシア語専攻、中山伊知郎ゼミ、柔道部。1937年「満州国」外交部通商司属官、1941年「満州国」外交部調査司第一科長。「戦没学友名簿」では、1952年12月9日、モスクワ付近で死亡とあるが、近時発掘されたソ連側記録では1947年3月5日ソ連最高裁軍事法廷で「関東軍に情報提供した」との理由で死刑判決、4月9日銃殺と推定される。その後、戦時国際法違反の戦争犯罪ではなくソ連の国内法を根拠として開戦前にさかのぼって秘密裁判で有罪とされたと判明。ソ連末期以降に名誉回復措置が進み、2001年6月20日に名誉回復されたというが、詳細は研究途上にある。享年39か44。

天真爛漫で中心的存在、端艇部会計として労多し。  
戦争の渦に呑まれ病身のうちに没した

○金子精之助さん 1911年生、1928年予科入学、端艇部。1934年三菱商事入社、1934年頃応召、1946年2月21日、ハルピン陸軍病院にて病没。36歳。

2019年 第50回一橋祭

### 戦争と一橋生

満州・シベリアで亡くなられた10人の学友の軌跡



一橋いしぶみの会 協力：一橋新聞部

哲学的思索を好み、優秀な成績を収めながら、  
端艇部のレギュラーも務めた文武両道の銀行員

○内海常雄さん 1912年生、1929年予科入学、杉村広蔵ゼミ、端艇部、1935年横浜正金銀行入行、神戸、天津、上海、北京勤務。1945年新京支店、同5月現地召集、歩兵第177連隊配属、同9月4日満州北部五文溝の戦闘で戦死。34歳。

\*

「禍福は糾える縄の如し」

失明に運命を翻弄された三女の父

○錦織 勇さん 1912年生、1932年予科入学、剣道部、1938年安田銀行入行、1943年北京駐在員。1945年現地召集、歩兵第280連隊に配属、同12月10日、チタ州ハラグンの収容所で病没。34歳。

(4面へ)

# 武器見本市はおことわりーNo arms fair-

11月18日 幕張の抗議大集会レポート

伊藤 陽一



千葉市の幕張メッセで18~20日にかけて「国際武器見本市」が開かれた。市民団体は海浜幕張駅前で抗議のスタンディングを続けたが、特に18日は12時から1時間あまり会場入り口で開かれた抗議大集会に、反原発首相官邸前抗議に毎週金曜夜に参加しているグループのY.Yさんとともに参加した。

ウェブサイトでの宣伝は(DSEI Japan : Defence and Security Equipment International)「日本の国際防衛・セキュリティ総合展示会」と称しているが、以下の写真や展示内容が示すように、まぎれもなく「国際武器見本市」である。出展は20カ国以上からの154社、日本からは61社が参加した(朝日新聞:11.21)。

後援:防衛省・自衛隊、防衛装備庁、外務省、経済産業省、協賛:日本航空宇宙工業会、日本造船工業会、JAXA・・・。主催者はClarion Eventsとクライシス・インテリジェント。実行委員長は元防衛事務次官・西正典氏。

1999年からロンドンで2年毎に開かれてきた世界最大の見本市を日本に移しての開催である。2014年に安倍内閣による「武器輸出(禁止)3原則」廃棄と「防衛装備品移転3原則」新設による武器の輸出入許容を背景に、海外武器メーカーが日本の防衛費の突出した増加(来年度の概算要求5兆3000億円)に注目し、日本の

武器メーカーの海外への売り込みを強化する狙いをもってのことである。

安倍政府が原発輸出失敗後に、武器やその部品輸出で経済成長を支えようとする魂胆。また国民が武器に馴染むことも狙ってのことだ。

早くから、武器輸出に関して関係省庁やメーカーに乗り込んで精力的に抗議を展開してきた「武器取引反対ネットワーク」(ナジヤット NAJAT : Network against Japan Arms Trade)などが構成する「見本市に反対する会」と「安保関連法に反対するママの会@ちば」が連携して、17年と本年6月の武器見本市(MAST Asia)反対活動に続いて、18日の抗議集会を組んだ。

ママの会@ちばは、「日本国憲法の精神に照らせば、世界のどこであっても武器の見本市が開かれることに日本国は本来抗議し、反対すべきです。しかし、経済産業省、防衛省、防衛装備庁、外務省は日本国の中防衛装備の興隆発展、日本の安全保障に資するもの、国際交流の場であるから等の理由で、これら武器見本市を後援しています。世界の平和を脅かすことに加担していると言っても過言でないと考えます」として強い抗議の意思を示している。

DSEI JAPAN'19  
防衛・セキュリティ  
総合展示会  
陸上 | 海上 | 航空 | テロ対策 | セキュリティ | 災害対策  
2019.11.18 MON ~ 20 WED @幕張メッセ

抗議集会は、階段下の広場で右翼が叫びたてる中で、行われた。抗議集会でのスピーチには、井上哲士（共産、参院議員）がたち、宮川伸（立憲、衆員議員）と小池晃（共産、参院議員）のメッセージが読まれ、韓国からの参加挨拶、そして多くの海外の市民団体からの連帯声明が読み上げられた。

コールで終了後、有志がダイイン。参加者は410人、3日間で500人の参加という。主催者側はすでに2021年の幕張での開催を宣伝している。これに大きな反対運動を組まなければなるまい。

コールは、武器はいらない！：No weapon！ 戦争反対！：No War! DSEI を止めろ！：Stop the DSEI！ 世界に平和を！ Peace to all！ 武器日本市はおことわり！No arms fair！ 死の商人はおことわり！ No Merchant of Death！その他である。

\* \* \* \* \*

この原稿の提出後に新たな情報を得たので追加する。

▼この見本市の公式ガイドブックの掲載インタビューでアレックス・ソーア氏が「最近の日本国憲法の変更是、軍備拡大、自衛隊の海外派兵、日本の国内産業（軍需企業）が地球規模で進出することを可能にした」と明言。日本での開催は「最適なタイミング」であり、「アジア市場への参入の足がかりになる」とし、すでに憲法変更としているという（しんぶん赤旗-11.21）。

▼文中でもふれた NAJAT の杉原浩司氏が、①会場内の展示物の写真を公開して危険な実態を示し、②20日にはクライシス・インテリジェンスの浅利真代表取締役が入場者の杉原氏を強制排除したこと、③会場には、2021年5月19日～21日に再び幕張メッセでの DSEI JAPAN 開催を予告していたことを伝えてくれている。

<https://kosugihara.exblog.jp/239792967/>

【写真：2ページ下部の案内ポスターはDSEI JAPANのウエブサイトから。3ページ最後の展示戦車は共同通信社ウエブサイト 2019.11.18から。その他は筆者撮影】





(1面から)

### 戦時中だからこそ堅実な学問の必要性を説き 続けた経済史専攻の東京商大助教授

○及川完さん 1914年生、1930年予科入学、1937年京城工商教諭、1942年東京商大助手、1944年東京商大助教授、同年応召、第67旅団司令部配属、1947年4月イルクーツク地方ジマ病院で病没。34歳。

\*

現地召集で身重の妻と別れ、栄養失調のため  
極寒のシベリアで逝った日本一のHB

○竹本克己さん 1918年生、1935年予科入学、ホッケー部、1941年滿州重工業(新京)入社、1944年結婚、同12月現地召集、同12月31日収容所で病死。29歳。

\*

時代の空気を感じながら弓道部の主将として  
部をまとめ就職先に満州を選んだ秀才

○中井 隆さん 1919年生、1935年予科入学、弓道部、1941年「満州国」昭和製鉄所入社、1945年頃現地応召、同9月19日シベリア移送の途中病没。26歳。

\*

母・弟妹の許への帰還を信じ、「牧羊の精神」を  
以って収容所生活に耐えたバスケット部員

○高木 孜さん 1922年生、1941年専門部入学、1943年陸軍東部12部隊入営、44年乙種幹部候補生、1946年2月25日中国吉林省延吉平城病院で病没。25歳。

\*

北京、満州での学友との再会を経て、鶴岡炭鉱  
で最期を迎えた柔道部の寡黙な九州男児

○吉田敦信さん 1922年生、1939年予科入学、柔道部、1943年西部第81部隊入隊、1944年經理幹部候補生、1948年5月20日松江省鶴岡炭鉱で死亡。25歳。

\*

学部進学と同時に応召、朝鮮半島に出征しシベリア  
収容所で坊没した、平家物語を愛した文学青年

○伊藤宏平さん 1925年生、1943年予科入学、1945年5月応召、仙台の部隊に入隊、同月朝鮮羅南の山砲兵79連隊に配属、1946年3月20日、コムソモリスク収容所で病没。21歳。

<コラム> 冤罪忘れるな!㊯

## 国家犯罪に“時効”はない

1941年12月8日

78年前の、この日、國家権力は国民を全面戦争に引き込むと同時に、この戦争体制を維持するため、利敵行為撲滅を口実に、恐怖の冤罪を仕組んだ。特高警察による、宮澤弘幸とレーン夫妻ら126人(追加15人含む)を標的とした捏造の一斉検挙である。以来、國家権力は敗戦を挟んで隠蔽を重ね、かつ78年の年月を逆手に、あたかも時効を得たかのように居座っている。



時効は、本来、法の杓子定規な運用によって生じる弊害や社会的損失を是正する便法であって、犯罪の隠蔽を正当化するものではない。まして、国家が権力維持のために捏造した犯罪の居座りに手を貸すなど、許されるわけはない。だが、この害毒は年々横溢し、現・安倍政権においては日常茶飯となっている。国家権力犯罪に時効はない。78回目の12月8日を前に、戦争と権力犯罪を追及し、思い新たにする所以である。

◆ ◆ ◆  
「スパイ冤罪事件」の真相に迫る決定版(本会編)

### 『引き裂かれた青春—戦争と国家秘密』花伝社刊

第1部=冤罪の真相 第2部=冤罪事実の条条検証  
資料編=判決全文、軍機保護法全文、年表  
特別添付=重要事項索引

申し込みは本会事務局までFAX・メールで(1面上部題字横に掲載)。送料税込み2300円。後払い。

**【事務局から】**伊藤陽一さんレポートにあるように「武器」がわが物顔してまかり通っています。「防衛・セキュリティ総合展示会」と称していますが、「殺人兵器宣伝見本市」です。一人の殺人が犯罪なら何万人殺しても犯罪なのです。来日したフランシスコ・ローマ教皇は、軍拡競争は「途方もないテロ」と非難しました。11月24日、福生市・多摩川中央公園で開かれた多摩地区住民の頭上に騒音を叩きつけてオオスプレイ配備反対集会に参加しました。どんな理屈をつけようとも「戦争は殺人」です。「戦争と一橋生」展は、それを再確認させてくれました。  
(福島 清)